

飛驒に大学がやってきた！

オープンカレッジ in 飛驒 2025

※講座内容・講師プロフィールの文章につきましては、講師の先生よりご提供いただいております。

【主催】飛驒・世界生活文化センター活用推進協議会
(岐阜県・高山市・飛驒市・下呂市・白川村)

【協力】一般財団法人 飛驒高山大学連携センター

1 慶應義塾大学 開催日 8/2(土)

改めて「地方消滅」の議論を考える

- ①13:00~14:30 「そもそも『地方消滅』とはどんな内容なのか？」
- ②14:40~16:10 「『地方消滅』の議論をこえて考えることとは？」

本講義は、2014年に発表された『地方消滅』およびその続編である2024年の『地方消滅2』を手がかりに、日本が現在直面する人口減少がもたらす社会的・経済的影響についての理解を促します。高山市のデータを用いながら、地域の持続可能性とは何かを受講者とともに考える場としたいと考えています。個人が地域とどう関わるか、未来をどのように築いていくかについて主体的に捉えるきっかけとなる講義を目指します。

長田 進(慶應義塾大学経済学部 教授)

専門は経済地理学・都市地理学。研究内容は日本の都市の構造変化や地域経済の活性化について。2005年より慶應義塾大学にて地理学の担当者として教鞭を取っている。高山市との繋がりとしては、2006年から学生と高山市で合宿を実施している。2014年からは高山西高校の「探究飛驒」の担当講師として、飛驒高山地域の魅力を生徒と共に研究している。

2 自然科学研究機構 国立天文台/ 開催日 8/3(日) 総合研究大学院大学

太陽系小天体の魅力に迫る

- ① 9:00~10:30 「わからないから面白い! 彗星の魅力」
- ②10:40~12:10 「サンプルを持ち帰る! 小惑星に挑む」

太陽系には大きな惑星ではなく、小天体と呼ばれる数多くの魅力的な天体群があります。そのひとつが彗星です。太陽に近付くと華麗に尾を伸ばし、明るくなることがあります。しかし、あまりに個性が強く、予測できないところもある不思議な天体です。また、火星と木星との間には100万個に迫る小惑星と呼ばれる天体群があります。中には地球に近付く軌道を持つものもあり、探査しやすいためにサンプルリターンや地球防衛の実験対象にもなっています。これらの面白い小天体に迫ります。

渡部 潤一(国立天文台 上席教授・総合研究大学院大学 教授)

1960年福島県生まれ。東京大学理学部卒。東京天文台助手、国立天文台広報普及室長、副台長などを経て現職。理学博士。国際天文学連合では惑星定義委員として準惑星という新カテゴリーを誕生させ、冥王星をその座に据えた。研究のかたわら講演、執筆、メディア出演等で活躍。「なぜ彗星は夜空に長い尾をひくのか」(誠文堂新光社)など著書多数。

会場／飛驒・世界生活文化センター、他
(岐阜県高山市千島町900-1)

受講料／1講座 2,000円(14を除く)

※受講料の他に課外講座費等が必要な講座があります。

飛驒地域の中学生・高校生は無料で受講いただけます。
ただし、課外講座費等は必要となります。

郷土学習・探究学習にもおすすめ

郵便はがき

お手数ですが
85円切手を
お貼りください

506-0032

岐阜県高山市千島町900-1

飛驒・世界生活文化センター
オープンカレッジ係 行

オープンカレッジ in 飛驒 2025
申込書

各講座とも開催の2週間前までに、郵送(切手貼付)もしくはご持参ください。
ただし、申込締切前でも申込多数の講座は締め切らせていただきます。

申込方法

①・②どちらかの方法でお申込みください。

① 右記QRコードを読み取り、応募フォームより

② 下記申込書を飛騨センターへ提出[郵送(切手貼付)][窓口]



電話・FAXでのお申込みは受付いたしかねます。

※受講者の方には、各講座とも開催の2週間前頃に「受講案内」を郵送・メール送信いたします。

その他注意事項

- 申込締切前でも申込多数の講座は締め切らせていただきます。 ●複数講座の受講による受講料等の割引はございません。
- 受講料等は各講座とも開始前に現金で徴収いたします。 ●お支払いいただいた受講料等は原則として返還いたしかねます。
- ご記入・ご入力いただいた個人情報は「オープンカレッジ in 飛騨」の運営のみに使用いたします。
- 天候・講師の都合などによりリモート講座に変更、または日時・講座内容の変更、中止となる場合もございます。

【お問い合わせ】

飛騨・世界生活文化センター
指定管理者 飛騨コンソーシアム

〒506-0032 岐阜県高山市千島町900-1
休館日/毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)
TEL.0577-37-6111 www.hida-center.jp



飛騨センター

検索

オープンカレッジ in 飛騨 2025 受講申込書 2025年 月 日

※ 必須 は必ずご記入ください。

受講希望 講座番号 必須	講座 番号	開催日・講座名・大学名
	1	8/ 2(土):改めて「地方消滅」の議論を考える(慶應義塾大学)
	2	8/ 3(日):太陽系小天体の魅力に迫る (自然科学研究機構 国立天文台/総合研究大学院大学)
	3	8/10(日):仮想空間を活用した地域と教育の未来(岐阜女子大学)
	4	8/11(月):医学部講義実演 はじめての「血液・造血器学」(岐阜大学)
	5	8/17(日):アンチエイジング医学 ~早死にしないために~(松本大学)
	6	8/24(日):明治時代に来日した外国人旅行者たち(愛知大学)
	7	8/24(日):これからの公共交通を考える(東京都市大学)
	8	8/30(土):多彩な観測による宇宙の解明(東京大学/東京都市大学)
	9	9/ 6(土):最新の太陽研究と天体観測体験(京都大学)★飛騨天文台講座
	10	9/ 6(土):和漢医薬学を学ぶ(富山大学)
	11	9/ 7(日):長谷川喜久が選ぶ「今観てもらいたい日本画」(名古屋芸術大学)
	12	9/13(土):ウェルビーイング(幸せと健康)+持続可能な観光づくり(文教大学)
	13	9/28(日):反ニュートリノ検出器カムランドによる地球と宇宙の観測 (東北大学)
	14	10/25(土):飛騨山脈の成り立ち2025(信州大学)★上高地講座
ふりがな		男・女
氏名 必須		(歳)
住所 必須	〒	—
電話番号 必須		—
メールアドレス		

申込締切:各講座とも開催の2週間前、または申込多数の場合。ただし、締切後でも
定員に余裕があれば受付いたしますので、お電話にてご確認ください。

3 岐阜女子大学 開催日 8/10(日)

仮想空間を活用した地域と教育の未来

- ①13:00~14:30「メタバースを体験しよう」
- ②14:40~16:10「VR空間をつくろう」

岐阜女子大学メタバースクラブが開発した下呂温泉や沖縄などのメタバースを紹介し、仮想空間を通じて地域の魅力や観光資源を体験できる内容となっています。また、3Dモデリングやモーションキャプチャーなどの先端技術を用いてメタバースを制作する具体的な事例を取り上げます。さらに、企業との共同研究を通じたメタバース活用や社会貢献の実例を紹介し、地域活性化や教育との融合におけるメタバースの可能性を探索します。

横山 隆光(岐阜女子大学文化創造学部 教授)

岐阜女子大学で教育工学を専門としており、社会貢献に力を入れ、産官学連携を通じた地域活性化を推進しています。また、メタバースやAIを活用した新しい教育方法の研究を進めており、技術と教育の融合に挑戦しています。

4 岐阜大学 開催日 8/11(月)

医学部講義実演 はじめての「血液・造血器学」

- ①13:00~14:30「急性白血病」
- ②14:40~16:10「成人T細胞白血病リンパ腫」

前任地の愛知医科大学で医学部3年生に行っていた血液・造血器学の講義を実演します。私が患者さんに対して病気について説明するときと同じように解説する講義です。テーマは「血液がん」です。実際には1コマ70分で行っていた講義を90分の枠でゆっくりとお話しし、実際の講義をわかりやすく体感していただけるような構成とします。

高橋 美裕希

(岐阜大学医学部地域共創型飛騨高山医療者教育学講座 特任准教授)

愛知医科大学を卒業後、臨床研修終了後に愛知医科大学で内科医・血液内科医として勤務。2017年から医療者教育を専門とし、2024年3月に岐阜大学大学院医療者教育学専攻課程を修了。2024年4月より現職。愛知医科大学医学部で「血液・造血器学」講義を2015年から2023年まで担当した。

5 松本大学

開催日
8/17(日)

アンチエイジング医学 ～早死にしないために～

- ①13:00～14:30 「注意!高齢者浴槽内溺死が岐阜県と長野県に多い」
- ②14:40～16:10 「アンチエイジング医学の最近のトピックス」

アンチエイジング(抗加齢)医学とは、理想的な予防医学ともいわれ、長寿研究を基礎に健康長寿を目指す領域です。現在、人類の最大寿命は120歳程度と推定されていますが、まずは早死にしないようにして、健康寿命の延伸を目指しましょう。そこで本講座では、本質的に予防可能と考えられる高齢者の不慮の事故死について、早死にしないための対策例として解説し、次にアンチエイジング医学の最近のトピックスについてお話ししたいと思います。

青木 雄次(松本大学大学院健康科学研究科 教授)

1981年～:信州大学医学部卒業、信州大学医学部第二内科入局／1993～1995年:ジョージタウン大学メディカルセンター留学／2003年～:国立病院機構まつもと医療センター内科／2019年～:松本大学大学院健康科学研究科教授 アンチエイジングに興味を持ち、2012年から抗加齢医学会に所属しています。

6 愛知大学

開催日
8/24(日)

明治時代に来日した外国人旅行者たち

- ①13:00～14:30 「グローブロッターの登場」
- ②14:40～16:10 「150年前の外国人旅行者は日本の何を見たのか」

「インバウンド」という言葉が定着し、今では日本各地で外国人旅行者を見かけるようになりました。しかし、外国人が旅行で日本を訪れるようになったのは、何も最近始まったことではありません。明治時代、それも開国して間もない時期からすでに、外国人による日本旅行は行われていました。彼らは日本のどこで何をしていたのでしょうか。この講座では、150年前に日本を訪れた外国人旅行者たちの新鮮な驚きや当時ならではの苦勞、そして感動を伝えます。

平 侑子(愛知大学地域政策学部 准教授)

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院観光創造専攻博士後期課程・単位取得退学。博士(観光学)。2016年奈良県立大学、2021年せとうち観光専門職短期大学を経て、2024年より愛知大学地域政策学部准教授。研究テーマは野生動物観光(奈良のシカの観光利用について)と感情労働。

7 東京都市大学

開催日
8/24(日)

これからの公共交通を考える

- ①13:00～14:30 「今、交通の現場で何が起きているのか?」
- ②14:40～16:10 「飛騨地域の公共交通をどうするか?(議論)」

高齢社会化や障がい者の増加、子育て支援の観点で、公共交通を維持することはとても重要である。インバウンドニーズへの対応としても、公共交通は大切である。しかし、鉄道・バス・タクシー等は運転士不足も進み、コロナ禍によるテレワークの普及や自家用車の普及で窮地に追い込まれる事例も全国に多い。本講座では、講師のほか、公共交通の現場の方々にも現状を話していただき、後半ではみんなで飛騨地域の未来の公共交通のシーンを考えてみる。

西山 敏樹(東京都市大学都市生活学部 教授)

1976年東京生まれ。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了。博士(政策・メディア)。同大学特任准教授等を経て現在、東京都市大学都市生活学部教授。バスやトラックのユニバーサルデザインやエコデザインに関する著作や論文が多数。バス業界の活性化方策に関するマスコミの出演も多数。

8 東京大学/東京都市大学

開催日
8/30(土)

多彩な観測による宇宙の解明

- ①13:00～14:30 「マルチメッセンジャー天文学」
- ②14:40～16:10 「KAGRAによる重力波観測」

宇宙の謎はだいたい解明されてきたとはいえ、まだまだわからないことも多いです。まず、これまでに見えてきた宇宙の姿を示し、現在世界中で進められている様々な宇宙の観測と今後の展望を紹介します。それに続けて、アインシュタインが存在を予言していた重力波を観測手段として、どのような宇宙の姿を知りたいか、重力波望遠鏡KAGRAの仕組みや目標などについて解説します。今年は重力波が初観測されてから10年目となる節目の年です。

牛場 崇文(東京大学宇宙線研究所 准教授)

大橋 正健(東京都市大学 特任教授/東京大学宇宙線研究所 シニアフェロー)

牛場崇文は、重力波望遠鏡KAGRAの運転と感度向上に注力しており、その国際共同観測の実現に貢献している。

大橋正健はKAGRAの建設および観測開始に、現場責任者として長年貢献してきており、現在はKAGRA観測を含むマルチメッセンジャー天文学の研究を進めている。

9 京都大学

開催日
9/6(土)

最新の太陽研究と天体観測体験 ★飛騨天文台講座

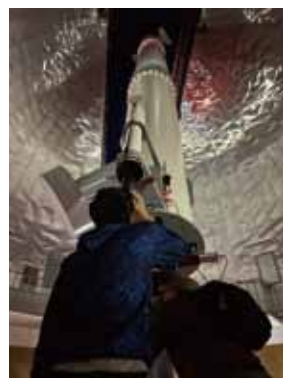
- ①16:30～18:00 「飛騨天文台での最新の太陽研究」
- ②18:30～20:00 「65cm屈折望遠鏡による天体観測実習」

高山市上宝町蔵柱にある京都大学飛騨天文台では、先端的な観測装置を駆使した太陽の研究を行っています。飛騨天文台の望遠鏡や、人工衛星、さらにコンピュータシミュレーションを駆使した最新研究からわかってきた、太陽活動と地球の関係についてわかりやすく解説します。また、初秋の夜空に輝く土星や球状星団などを、65cm屈折望遠鏡を用いて眼視観測をします。

- 受講料の他に課外講座費3,000円が必要です。
- 集合場所から全員でのバス移動となります(自家用車で直接飛騨天文台へは行けません)。
- 14:30集合～21:30解散予定です(中学生・高校生の方は保護者の方のお迎えが必須です)。
- 詳細は申込締切後にご連絡いたします。

永田 伸一(京都大学大学院理学研究科 助教)

2000年に東京大学から博士(理学)の学位を取得。2003年から飛騨天文台勤務。専門分野は、飛騨天文台や、人工衛星に搭載された望遠鏡を用いた、太陽の電磁流体现象の研究。現在は、ハワイにある世界最大の太陽望遠鏡に設置する最新装置の実現に向けた活動をしています。



※写真は前回のものです。

10 富山大学

開催日
9/6(土)

和漢医薬学を学ぶ

- ①13:00~14:30「和漢薬を科学する」
- ②14:40~16:10「身近な病氣と和漢薬」

伝統医学は人類が永きにわたり疾病の予防や治療にあたってきた経験知の集積です。富山大学和漢医薬学総合研究所では、現代の先端科学技術を駆使して現代における様々な疾病の発症や予防、治療に関わる研究や、和漢薬をはじめとする伝統医学や伝統薬物について研究しています。本講座では健康な生活をおくるため、漢方薬をはじめとする和漢薬や身近な病氣に関する医学・薬学についてわかりやすく解説します。

早川 芳弘(富山大学和漢医薬学総合研究所 教授)

1996年富山医科薬科大学(現:富山大学)薬学部卒業。2001年同大学院薬学系研究科博士後期課程修了(薬学博士)。2001年からピーターマッカラムがんセンター(オーストラリア)上級研究員、2007年からメルク万有製薬つくば研究所リサーチフェロー、2009年より東京大学大学院薬学系研究科特任准教授、2012年富山大学和漢医薬学総合研究所准教授、2017年から同教授。

11 名古屋芸術大学

開催日
9/7(日)

長谷川喜久が選ぶ「今観てもらいたい日本画」

- ①13:00~14:30「長谷川喜久が選ぶ『今観てもらいたい日本画』」
- ②14:40~16:10「色紙に描く吉祥画」

日本画は歴史の中でいくつもの分岐点があり、その都度新たな意味を持ち、増やしながら現在もお進化し続けています。講師長谷川喜久自身が日本画を語るうえで、「これは是非観てもらいたい!」という作品について解説をいたします。講義後、日本画のイメージがひよっとしたら変わるかもしれません。※受講料の他に材料費1,000円が必要です。

長谷川 喜久(名古屋芸術大学美術領域 主任教授・日展特別会員)

1964年:岐阜県に生まれる/2005年:日展 会員賞('18東京都知事賞/'22文部科学大臣賞)/2011年:上海美術館主催 長谷川喜久展(上海美術館)/2014年:現代日本画の世界サテライト長谷川喜久展(岐阜県美術館)/2016年:建仁寺塔頭両足院 屏風奉納/2019年:瑞龍寺 塔頭 天澤院 双龍図襖 制作依頼、GORO NOGUCHI GOLDEN HIT PARADE 展企画プロデュース(美濃和紙の里会館)/2021年:長谷川喜久日本画展 感情と記憶のカタチ1991-2021(佐藤美術館)/2023年:岐阜市民栄誉賞 受賞/現在:日展特別会員、日春会会員、名古屋芸術大学美術領域主任教授

12 文教大学

開催日
9/13(土)

ウェルビーイング(幸せと健康)+持続可能な観光づくり

- ① 9:00~10:30「幸福とは? -都市と農村の幸福」
- ②10:40~12:10「ウェルビーイングとツーリズム」

旅先での交流は、未知との出会いが心身の健康にプラスの効用をもたらすとともに、豊かな人格形成、多様な人生経験の一部となります。このテーマに「幸せと健康(ウェルビーイング)」があります。サステナブル(持続可能)なツーリズムとは、住む人も訪れる人も、双方でハッピーでなければ続きません。人が旅を通じていかに時間を過ごすか、また感じるものが幸せなのか。現地の人々の「生活」、「私たち自身」、「おたがいの幸せと健康(ウェルビーイング)」のこの関係が続く観光について理解を深めます。講義では特にツーリズムとノマド、カフェとワーケーション、本物を求める観光とは何か、を扱います。

黛 陽子(文教大学国際学部 准教授)

社会学的な観点に基づいた地域科学研究で、サステナブルツーリズムを実現する背景に潜む、伝統文化の継承を視点とした研究に取り組んでいます。大学の講義では、環境、農業と関連するテーマの解決策を、クリエイティブやプランニングの方法論を用いてツーリズムやソーシャルビジネスとして提案する内容を扱っています。

13 東北大学

開催日
9/28(日)

反ニュートリノ検出器カムランドによる地球と宇宙の観測

- ①13:00~14:30「ニュートリノで見る地球と宇宙」
- ②14:40~16:10「反ニュートリノ検出器カムランド」

「無」から始まった宇宙に物質が残っているのは何故か。我々を構成する元素はどうやって作られたのか。地球や太陽内部ではどのような活動が行われているのか。これらの疑問を解き明かすための最も有効な手段の一つがニュートリノ観測です。宇宙・天体・素粒子の様々な謎に、ニュートリノを用いてどのようにアプローチしているのかを紹介します。

細川 佳志(東北大学ニュートリノ科学研究センター 特任助教)

液体キセノンを用いた暗黒物質探索で博士号を取得後、カムランド実験やスーパーカミオカンデ実験などに参加し、約15年間、地下での宇宙素粒子研究を行っています。誰も見たことのない物理現象を自らの手で観測しています。

14 信州大学

開催日
10/25(土)

飛騨山脈の成り立ち2025★上高地講座

- ① 9:30~12:30「上高地の成り立ちと梓川の流路変遷」
※上高地に行く前に、「中部山岳国立公園奥飛騨ビジターセンター」にて、奥飛騨の成り立ちについて約1時間の講義があります。
- ②13:00~16:00「第四紀花崗岩の発見と槍穂高連峰の誕生」

平坦な上高地、流れる梓川の勾配は0.8%しかない。この梓川は1.2万年前までは飛騨に向かう急流だった。白谷山火山の噴火と山体崩壊は巨大な堰止め湖を形成し、これが埋積されて現在の上高地が誕生した。槍穂高連峰は、175万年前の巨大なカルデラ火山として誕生した。カルデラを埋めた火山灰は高温で固まって硬い岩石となって険しい岩稜を作るもととなり、地下のマグマ溜まりは急速な隆起で4km以上持ち上げられ、地表に露出する世界一、二を争う第四紀花崗岩となった。

- 受講料は4,000円となります(1日講座のため)。
- 受講料の他に課外講座費5,000円が必要です。
- 集合場所から全員でのバス移動となります(自家用車で直接上高地へは行けません)。
- 山道を長時間歩きます。
- 8:00集合~17:30解散予定です。
- 詳細は申込締切後にご連絡いたします。

原山 智(信州大学理学部 特任教授)

長野県出身。高校時代から登山に親しみ、東京教育大学、京都大学大学院で地質学鉱物学を専攻。また、通商産業省工業技術院地質調査所で、中部山岳地域の槍ヶ岳、立山、乗鞍岳、上高地、松本、富山等の地質図幅を編纂し、多くの研究者、教員、地学愛好家、登山者等に活用されている。現在、(一財)飛騨山脈ジオパーク推進協会 副理事長。



※写真は前回のものです。